

「語ろうかい」番外編

昨日 14 日 14 時から、大阪谷町 2 丁目のターネンビル 2 階で「語ろうかい」番外編を開催した。「語ろうかい」はお盆の 8 月 15 日、29 日、9 月 19 日の 3 回開催してきたが、もう一度「番外編」を企画することにした。フェイスブックに案内を投稿しただけだが、18 名の方に参加してもらった。最初に私から問題を投げかけた。

11・1 住民投票から 2 週間、まずは「大阪市廃止」から「大阪市存続」の 5 文字の変化を喜びたい。参加者の皆さんは、それぞれの場で奮闘努力されてきたと思います。それぞれの「活動」について、課題を含めて語り合いたいです。私は 11 月 4 日レポートで次のように書きました。ささやかな「活動」のなかで数多くの人と出会い、多くのことを学んだ。その成果を今後の大阪市研究、大阪の持続的なまちづくりに活かしていきたい。

あす14日14時から
「語ろうかい」番外編
ターネンビル2階
大いに語ろうかい!?

この間の「活動」から学んだことから、次のような課題をじっくり調査研究していく。

- ・政令市大阪市と広域自治体大阪府、各々の現状と両者の関係について
- ・広域行政と大阪市の「都市内分権」、とりわけ区役所と地域自治組織
- ・住民投票でも問題になった大阪市と大阪府の財政、行政サービスの実態
- ・維新政治のもとでの行政組織の変質、とりわけ大阪府市「副首都推進局」
- ・場当たりの行政から総合的な行政への転換、総合計画作成に向けて

こんなことを考えていたが、維新は舌の根も乾かぬうちに、「大阪市存続」を骨抜きにするような動きを始めた。「条例による広域行政一元化」「総合区」制度の動きである。中長期的な課題を見すえながら、当面する課題について検討していきたい。維新政治への対抗軸と「語り学びの場」の大切さを語って問題提起を終えた。

このあと提案があり「車座」になって、参加者から次々とあつい発言があった。写真は住民投票に向け、ゆるくつながる「大阪・市民交流会」共同代表の元大阪市長の平松邦夫さん。もう一人の共同代表、浪速の経済人・中野雅司さん、事務局の皆さん、交流会メンバーには大変お世話になった。



参加者の発言を項目だけ紹介しておく。「広域行政一元化」は地方自治法に反する。今回は「政策」と路地裏宣伝で勝利した。勉強しながら動き、また勉強した。「空中戦」ではなく「地上戦」に追い込んだ。長期的に活動を続ける必要がある。この間の活動をきちんと記録として残すことが大切。考え方も違ういろんな人と「生活者」として対話を繰り返した。「ちゃうねん」ではなく「そやねん」が大事。大阪の市民パワーの強さ。地方自治体の責任。経済の成長とは何か。足もとからの経済政策と地道なまちづくり。大阪市職員基本条例と市職員との連帯。声をあげ続けること、などなど。

今回も「語ろうかい」から多くのことを学んだ。こんな会を継続していきたいものだ。

(2020年11月15日)